

第3回瀬戸市 ICT 戦略推進プラン検討委員会 議事録

開催日時	令和2年9月28日(月)午後2時から4時まで				
開催場所	瀬戸市役所北庁舎4階庁議室				
出席委員	8名	欠席委員	0名	傍聴者	7名
会議概要	<p>1 開会挨拶 (事務局・情報政策課長)</p> <p>ただいまから第3回瀬戸市 ICT 戦略推進プランの検討委員会を開催いたします。司会進行はわたくし梶田が務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。本日は大変お忙しい中ご出席ありがとうございます。また新型コロナウイルス感染症の収束の見通しがたたない中での開催となり大変恐縮でございますが、どうぞよろしくお願いいたします。またこうした状況を受けまして先程案内がありました。本日の会議の様子を大会議室のほうに映して音声と映像で傍聴していただくようになっておりますのでご理解をいただきますようお願いいたします。では、初めに安田委員長のからご挨拶頂きたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>(安田委員長)</p> <p>大変お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。サイバー、リアルどちらでもということですが、委員の皆さんリアルな場でご出席ということで今日は本当にありがとうございます。今日は第3回ということで、事務局から瀬戸市 ICT 戦略推進プラン・官民データ活用推進計画の素案がでておりますので、今日はこれにつきまして皆様方の率直なご意見をいただき、最終的にこれをよりよいものにしていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。</p> <p>2 瀬戸市 ICT 戦略推進プラン・官民データ活用推進計画(素案)について (事務局・情報政策課長)</p> <p>それではここからの議事進行は安田委員長にお願いしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。</p>				

(安田委員長)

議事に従いまして進めさせていただきます。議事の次第に事務局説明ということでよろしく申し上げます。

(事務局・岡田専門員)

情報政策課の岡田です。(以降素案の中身説明)

(安田委員長)

今の説明の中身について委員の皆様から率直なご意見を順番に聞いていこうと思っています。まずは副委員長の後藤委員からお願いします。

(後藤副委員長)

かなり網羅的に出来上がっているというのが率直な感想です。文章としてどうかというところで話をすると、網羅されているが売りというか具体的なものが、この中に入ってくるといいというのが率直な意見です。事実は非常によく分かるが、今回、生活者目線、市民目線というところを大切にしているところがあると思うので、市民の目線から見たときに、瀬戸市はこれから何をしてくれるのだろう、ICT でどう変わっていくのだろうという、わくわく感というかそういうところはおそらく誰もが持つはずです。そこが、こういう文書の中でそういうものが表しづらいというのは重々承知していますが、例えば CG キッズひとつ取り上げたとしても、その CG キッズで、一例にですが、具体的にどういう人が育っていった、その人はその後人生をどう送っているのか成長していったのかということも、もっと具体的にあげてピックアップしてだしていいと思うし、その人たちがこういうところに就職しましたということも含めて、それをきちんと追っていく。それは私たちが関わったせとまちナビに関しても同じだと思いますが、せとまちナビのやはり売りというところがあるはずで、それがもし今売りづらい状況にあるのであれば、そこをきちんと変えていかなければいけないと思うし、市民の人たちが自分たちの視点で気づいたところを書き込むことができるということは、行政の管轄しているシステムの中でそれができるというのは結構画期的だと個人的には思っているところがあり、それをきちんと吸い上げたうえで、例えば道を補修してくれるとか、除草作業をしてくれるとかということも含めて具体的にすごく目に見えて変わっていくというところに繋がっていくというのは積極的に売って行ってもいいと思います。ですから、そ

うしたより具体性のある表現が、この中に加わっていくと更に推進計画書として意味・意義がでてくると思いますし、より今回の検討委員会の中での一つのポイントといたしますか、ただ単に ICT を導入すればということではなくて、市民目線でより具体的にどう変わっていくかをデザインしていける、そういうストーリーを持って提案していけるといところがポイントだとすれば、そういうものに近づいていくとみました。

(安田委員長)

後藤委員からのご意見納得できるなと思ひまして、形式的にはとてもよく纏まっているけども、今のお話を伺っているとこれは往々にして役所の作る計画書としての形はしっかり整っているけども、そこに魂というか、こころに触れるようなそういう表現までこの際入れてもいいのではないかということの後藤先生からのご意見だったと思ひます。この際ぜひこの計画書をこれまでにない計画書にするという、そういった魂というか、そこまでできる限り含められるといいと思ひます。次、濱村委員から願ひします。

(濱村委員)

前段の課題の部分と後半の骨子の部分に連携という意味でいうと少し切れ目があります。頭を敢えて切り替えないと施策というものが課題にマッチしているのか頭の中でなかなか結びつかないということが改めて感じたところです。それはなぜかとみたときにやはり前半は自治体の瀬戸市様がこういう取組を今、していますと書いてある延長線上に、市民向けあとは市内の ICT 化で、その市民向けの中には学校教育もあれば中小企業の支援だったり、新しくこういう ICT の産業を生むみたいな話であったり、いくつかミシン目で切ったときに切り方があると思ひます。それが基本目標の最後のページに書いてある 1～4 のまちの活性化やスマートシティの実現等だと思ひますので、もしこの基本目標をきちんと掲げるのであれば、前半の目標のところをその切り口で纏められるといいと思ひますし、委員長が言われたように誰向けなのかということも、市民向け目線でということも言われた通りまさにそうだなと思ひ返すことがありますので、誰向けにということにフォーカスをして基本目標のところにも書いても少し暖か味が増すと思ひました。前半二つはどちらかというと市民向け、後半二つについては自治体の効率化に繋がると思ひますのでそういうエッセンスを

入れるだけでも分かりやすさは増すと思います。

(安田委員長)

4つの目標をベースに分かりやすく表現したらいいのではないかという意見だったと思います。次は前田委員からお願いします。

(前田委員)

同じようなことを思いましたが、目次のところをみたら非常に全体的に網羅的にきれいにひとつの流れで書かれていると思いました。その目次で私が一番思ったのは、3章で瀬戸市の現在の状況とこれまでの取り組みと評価が書かれていて、この評価というところでいろいろな計画を立てようとする、評価をしてこの部分は非常に良かった、こういう成果があげられたと、だから次もここを拡大していきましょうというような形になっていく、あるいはここは悪かった不十分だった、思ったような効果が得られなかったと、だから次は方向を変えて場合によっては事業を廃止したり違うことをやったりというようにこの3章というのは位置づくと思っていましたが、中をみるといわゆるこういう形でしたというような評価が書かれていて、だからこれを拡充するとか、だからこれは方向性を変えるというような、ある意味評価になっていないのが先程から言われている差ができていくひとつの理由だと思います。出来ればこの評価というところをきちっと本当に評価をしていただいて後に繋げるような評価をして頂くのがいいのではないかと思います。それが1点目。あともう1点は同じく評価のところですが、生活者目線とわざわざ今回の計画に書かれているということであれば評価のところもある程度生活者目線で評価していただくと非常にいいのではないかと思います。具体的に何かというと基本アウトプットの評価で、我々これだけやりましたと例えばWi-Fiの設置数はこうですとかオープンデータもこれだけ作りました公開しましたと書いてあるが、それでどうなのかと、それがいいのか悪いのか私たちには判りません。キッズプログラムで実際参加された方にアンケートも取っているのと同じようにWi-Fiやその他のこともアウトカムの評価、実際に使った方が非常に満足していたとかそういったものを入れて、今は増えているがこのエリアはまだ足りないからこのエリアに追加するというような、評価にストーリー性を持たせてそのストーリー性にあった形で次の計画に流れていき、それがそのまま施策に繋がっていくというように一連のストーリーで流れていくと分かりやす

いと思いました。

(安田委員長)

前田委員からは評価についてのご指摘を頂いたと思います。まさに生活者目線での評価のところはとても重要だと思います。私もいろいろな委員会にでていますが、どうしても役所側の評価で終わってしまっています。今回の前田委員のご指摘もそうなのですが、それに加えてもう少し利用者側、生活者目線での評価が出来るものは入れてほしいです。そこから次の計画につながっていくところを出来るところでご検討いただければと思います。前田委員ありがとうございました。続いて羽根委員をお願いします。

(羽根委員)

内容についてみますと、文字ばかりで少し読みにくいと感じました。国の方が読まれたり県の方が読まれたり、でも市民の方の目にも留まるものにするとなると少し英語を多用しているというのがあって、勿論使わなければいけないところもあるのですが、やはり読み手の目線にたった読み手が困惑しないような内容に作っていただければと思います。例えば、からだという字を漢字で書くと読みにくいけれどカタカナでカラダと書いた方が、少し音加わるようなそんなイメージで、もう少し軽いというか分かりやすい内容にいろいろな方が見ても分かるものにしていただけると思いました。あと話がそれてしまうかもしれませんが、せとまちナビの件がすごく気になっています。せとまちナビは非常にいいアプリで、この委員の中でもたくさんの方が関わられているということも私も承知をしています。いろいろな方にやはり使って頂きたいアプリだなと思うのですが、実際のダウンロード数をみると市民の数からすると非常に少ない。5,741 ということでダウンロード数が非常に少ない。起動回数 29,092 とでていますが、もしかしたら一人の方が何度も起動すればそれにカウントされてしまっているのかなと感じています。私の一意見として聞いて頂ければいいと思うのですが、せっかくこれだけ素晴らしいアプリがあるのですから、もっと未来形のアプリに進化をさせて行くのも良いのではないかと私は思います。どういったものかという、市民目線で、今、市でこんなことがありましたと報告するところがあったり、あと役所の内容をどうとみたり、また使ってみたいと市民の方が思えるものではまだまだないのですが、これから努力して作っていくものだと思うのですが、

もう少し使ってみたいと思ってもらえるようなアプリに進化させてもいいと思います。更にこういったアプリを作りましたよと市民は知っていると思うのですが、以前もお話したかも知れませんが、私の方で2000年度に国の施策でIT講習というのがありまして瀬戸市でも講座を行いました。公民館がいくつもあるものですから、一つの公民館にだいたい20人、そこで4講座やって各公民館5つぐらいで1日と考えただけでも相当な人数が受けています。そういったまちづくり協働化もありますので、公民館も一緒に交わってせとまちナビを使いながら、せとまちナビの中にいろいろないい発想を起こしていくと、例えば安否確認などもあります。例えば今日は元気、普通、あまり調子がよくない、の3つのボタンがあり、ポンと押すだけで息子さんにメールが届くというような、もう少し操作が楽なものにカスタマイズ・改修していく方向で考えていかれたらどうかと思います。あともう一つ、その中に買い物難民の方もいらっしゃると思うので非常に難しいかも知れませんが、キャッシュレスの時代になっているので地域のお店のものをその中で決済ができるような仕組みをせとまちナビに入れていくと良いと感じております。

(安田委員長)

ありがとうございました。せとまちナビに対する熱い愛情が伝わりました。関わっていらっしゃる後藤先生いかがでしょうか。

(後藤副委員長)

ありがとうございます。私も開発の時はいろいろな思いを持って開発してきたところもあります。ひとたび手が離れてしまうとその後は行政にお任せして携われていないところを私も反省しなければというところがあるのですが、今まさに仰って頂いたように一つのプラットフォームというかそういうアプリがあること自体が一つの瀬戸市にとっても大きな財産になっていくと思います。改修するにしてもお金がかかるという現実的なことはあると思うが、やはりそれがどんどん日々市民の使いやすいもの、使ってよかったと思うもの、使いたいと思うものに近づいているものにならなくてはいけないと思うところがあるので、そこに関しては、より今の利用状況に適合しつつ更に瀬戸市ならではのものを加えつつということではできると思います。ものすごく大きな何かをしなくても、そこはアイデアで出来ることはあると思いますし、既存のプラットフォームをいくつかつなぎ合わ

せることによっても実現することはあると思います。そういった形で広げていって瀬戸市に住んでいる人にとってこのアプリは必須のものになるといったように育てていくことができたらと私としてもそういう思いはあります。

(安田委員長)

ありがとうございました。情報の話をするときいつも私は思うのですが以前は情報というのはインフラの一つみたいに思われていて道路とかと同じように思われていたのですがでも各委員もお分かりのように情報というのは後藤先生が言われたように育てることがすごく大事だと思います。ですから作ったらおしまいというハードウェアではなくて、やはり生み愛情込めて育てていく、ぜひ ICT 戦略プランもいい形でよいものに育てていただいてというように思います。あと 1 点キーワードにつきましてもよくあるパターンとしましては後ろにキーワード集をつけるとかをお考えいただければいいと思いますのでよろしくをお願いします。それでは続きまして林委員をお願いします。

(林委員)

見やすいように分かりやすいように努力をされた感じは伝わるのですが、私の中で大事だと思うのが位置づけとか動向とかよりも、瀬戸市の現状と、だから何をやっていかななくてはいけないという今これがないという課題と、あとだから目標をこういうふうにしてこういう姿を目指していきたいという部分が、一番私の中で大事かなと思うのです。その目標が瀬戸市の姿（3ページ）で簡単なもので、ここに、だからそういうことをやっていこうというものをもう少し深く書いてあってもいいかなと思いました。そして、総務省の人数とかでていますけれども、実際瀬戸市の方がどのぐらい ICT を利用されていて、どんなツールを使っているかを国と同じような感じになると思うのですが、そこがよくわからないので、本当は事前にそういうアンケートも取った方がよかったのではないかなということを思いました。羽根さんが言われたせとまちナビのことも私も思ったのですが、私自身はすごく好きで、ただいろいろ情報が多いので逆に見づらくなっているのかなという部分があるのですが、これも 5, 7 4 1 というのが、何人の方が持っていて、そこまで細かくやるのは勿論難しいのですが、意外に 5, 7 4 1 はすごく少ないと私は思ったのですが、もしすごくたくさんの方がスマホを持っていてアプリを取得できる環境にあるのにこ

の数だったら少し宣伝が足りないのかまたは知っているもそこに魅力を感じてないのかなと思いました。5,741に対しての起動件数がやはり少ないのもっとホットに情報が得られるような仕組みも大事だなと、私、ラジオサンキューで交通情報をお伝えしているのですが、やはりタイムリーな情報はリスナーさんから「どこで事故があって混雑しているよ。」とメールがきたりそういう仕組み、例えばここ工事しているので混んでいるとか人身事故があつてとか、ツイッターとかでも入ってはくるのですが「瀬戸線が止まっているよ。」とか、そういうタイムリーなものも市民のみなさんが自分で投稿できてそれを共有できるような、そういう仕組みがあつてもいいと思いました。あと、基本目標が4つあつて、一つ目に「みんながICTを使いこなし」とあるのですが、これを使いこなすにはみんなが持っていないといけません。でもICTをみんなが実は持つてはいないと思います。全員が持つていないわけではないので、みなさんがツールを持つには金銭的なものも勿論あるでしょうし、「使えないよ。」と思っている人にこういうICT化、「市役所に行ったら気楽に相談にのれますよ。」とか、持つのが大変な方に「何か補助がありますよ。」とかみんなが持つてるといふ仕組みをつくるという、ここにも生活の利便性向上というところに情報格差を是正していくということです。高齢者、障害者、外国人、子どもなど全ての市民がICTを活用しとあるのでまさにすべての市民が活用できるような、またツールが持つてるといふ仕組みがそれ以前に大事なのかなと思いました。オープンデータは、これを頂いてからいろいろ見たらこんないい情報があつたのだと思ったので、これも結構知らない人もいると思うのもっと伝えていかなければならないし、もっと増えていくといいと思いました。あと広報10月1日号が届いてごみのことが書いてあつたのですが、私個人的に「へらせつと大辞典」が大好きで何を捨てるのでもこれを調べてこうやって捨てるのかと、あれを作つた方はすごく大変だつたと思うのでそれをもっとみなさんに知らせてみなさんが活用できる仕組みがあるといいと思いました。

(安田委員長)

ありがとうございました。重要な指摘をいくつか頂いたと思います。みんなが使えるというのはまさにデジタルデバイドの問題だと思うのですが、私の経験で一言伝えたいのですが、先週ですが愛知県のある町で高齢者を対象としたICT講習みたいなことをやりました。その時に、今日のご説明にありましておとりスマートフォンをみなさん持つ

ていて、かなり普及率は先程のグラフにありましたけどもかなり高まっているなと思っていて、それで感じたのは結構持っているけども使い方が今ひとつ十分ではないことがあり、そういったスマートフォン講習会というのは非常に有効だなと思ったのと、私たちはスマートスピーカーの研究もしております、その時にスマートスピーカーでこんなことができますよというデモンストレーションをしたら、ものすごく反応がよくて、しゃべるだけでこんなことまですると。独居の高齢者の特に男性は外出しなくなります。外出を誘導させる役所の役割がとても重要で、これまで役所はビラとかアナログ的な情報で発信されていることが多かったのですが、それを例えばスマートスピーカーが明日どこで何かありますよという話をしてくれるとその中で繋る、意外とスマートスピーカーみたいなものがデジタルデバイド解消の一つのきっかけになるし、それが健康な高齢者を社会に根付かせるための一つの道具になるのかなと思いましたので今後、瀬戸市においても ICT を利活用していく中でデジタルデバイドの解消をしなければいけないなかでスマートスピーカーみたいなものをうまく使っていくということもお考えいただけるといいのかなと思います。林委員ありがとうございました。それでは続きまして寺田委員からお願いしたいと思います。

(寺田委員)

国のデータや県のデータが多くて検討委員でないと読まない感じになっています。もう少しナローというか瀬戸市に近いところでイメージできるとよいと思います。大前提の部分と問題提起というのがあるが、そこに対していきなりゴールがでていながらその間に何をやればゴールになるのかというところがイメージしにくいと思います。例えば生産年齢人口が今後減っていくことでいうと、生産年齢人口を増やそうと思うと、生産年齢人口はだいたい子育て世代になるので、その子育て世代の転入を望もうとすると学校のイメージを充実させていかなければいけないと思うが、今の小中学校をどうしていくか、ICT を利用して小中一貫教育を充実させていきますではイメージが湧かない。もう少し学校がどういう状態になっていくかだとか、他市町に比べてどうだとかが見えるといいと思います。あと高齢人口が増えていくのが瀬戸市の課題となっているがその課題を解決するためにはどうするかという、さきほどの 4 つの項目がでてくるだけでその間のことがでてこなくて、高齢人口の人たちが在野の人材で労働力になっているか

もしれないし、その方々が ICT を利用して生産年齢人口になっていく可能性がみえてこない。アプリケーションにしてもなぜ使われないか、あまり必要がないからだと思います。9 ページにソーシャルメディアの利用率をみるとほぼみなさん LINE を使っています。それは必要性があり使わざるを得ないから使っていると思います。瀬戸のアプリケーションも使わざるを得ないものにする、だす前に完璧なものにする必要はありません。作ってよりよいアプリに育てていけばよいと思います。まずは使っていただくことで地域のみなさんに不便さをあげていただいてそれを変えていくとうことで必要なものになっていくと思います。

(安田委員長)

評価から改革につなぐところが具体的には何をしなければいけないかというところが見えにくいという指摘だと思います。課題をベースにしてこうあるべきだということを少し交えていけると生活者視点で確かにこの計画を進めていくと今の課題が解決しそうだなどと思わせるところがあればいいと思います。つづきまして戸田委員からお願いします。

(戸田委員)

瀬戸市の情報は勉強になりました。一番気になったところは瀬戸市が抱える問題のところ、今後高齢化が進み、若い人の転出が増えるということに対してせとまちナビの利用や ICT 活用で若い人が戻ってくればいいと思いました。

(安田委員長)

28 ページの令和元年のあとがきれています。グラフの配色の使い方を統一してほしいと思います。全体の考え方がわかる資料がほしいと思いました。前半ここまで、休憩を挟んで後半開始します。

(事務局・情報政策課長)

課題から目指す姿につながるところが弱いのはそのとおりだと思います。そこを厚くしたいと思います。オープンデータは公園であるとか公衆トイレ、授乳おむつ替え施設を載せているので、おでかけ情報サイトのいこうよと連携しお役にたてている部分があります。アプリについてはデジタルリサーチパークセンターで開催される講座で紹介した

り、招き猫まつりで投稿してもらって賞を出したりしてきました。今後は公民館やまちづくり政策、産業政策と連携してやっていきたいと思っています。AI チャットボットを来年度から始めようと思っています。これを入口に使うとまた魅力が上がると思います。またオープンデータの地図情報をせとまちマップと連携できるようにします。

(安田委員長)

いこうよは、もっと大々的に宣伝してもよいのではと思います。4つの基本目標が柱になる。これはどういう位置づけか分類できないか。ページの右上に色分けして表示しどの基本計画に関するか分かるようにし、それぞれの内容がどの柱のことをいっているかわかるようにする。Society5.0 と合わせて、各ページ QR コードを入れてホームページと連携できるようにしてサイバーとフィジカルに対応した計画書にすることも検討してほしいと思います。

(後藤副委員長)

過大な表現はよくないがもっとアピールしたらいいと思います。Wi-Fi のアクセスポイントがきちんと整備されているのであれば、市民はどこでも Wi-Fi を使えることが分かるとか速くなるのが分かるとかお得になることが分かるとか表現のしかたもあります。もちろんこういう性質のものなので難しいところもあると思うが可能な限りそういう表現を加えていけると更に読んでよかったというものになると思うし、こういう風になるのだなと想像がつくと感じました。13ページから14ページのあたりの新型コロナウイルスに関しての昨今の世の中の流れを受けてというところでの新しい生活様式の実践例を厚生労働省のホームページの図を用いているが、やはりこの事態は世界中にとって相当な衝撃なわけなので、こういう状況下で ICT 戦略プランを世の中に出すことはチャンスだと思います。今しか出せないもの、今しか入れられないものがあるはずで。そこに対して瀬戸市が、市民が不安に思っているところを ICT で包括しながら考えているというところはもっとぶ厚くしてもいいと思います。そこが触れられているものの、その関係性、流れとして我々のこの計画がスタートした時点とコロナウイルスことは同時に進んできたというところはあるので、リンクさせることは難しいところもあると思うが、スピード感とか今しかできない表現はあるはずなのでそこを考えていただきたいです。またこの場で考えることも大事なのではないかと思います。

(安田委員長)

今の後藤先生からの意見について事務局から意見はありませんか。

(事務局・情報政策課長)

確かにイメージは湧くがなかなか具体的にはすぐに出てこないの
でじっくり考えることが必要かなと思います。事務局からお許し頂けれ
ばみなさんとメールとかで意見交換させて頂いて、なにかアイデアが
あったらお寄せいただくとか、こういう風だといいいのではとか、ご協
力を頂けるとありがたいなと思いつつ、全体的にみて、さきほどあった
とおりこういう課題があって今こういう状況、何が足りない、何が十分、
どれを拡充していく、何が必要、最終的にそれが事業の評価の何が必
要かという優先順位のキーポイントになると思うので、その辺の流れが
もう少しわかるようにしないといけないと思います。2月、3月で始ま
って一気に加速していき、デジタル庁もできるということなので、また
どんどん変わっていくと思います。自治体クラウドで新しいシステム
もつくるということなので、今の時代にあったという部分は取り入れ
ていくので、皆様もご情報等があったらお知らせ頂きたいと思います。

(安田委員長)

アピールできるところはもう少しアピールする。コロナについても感
染症対策を ICT で対応できるかわからないが考えているということ
をアピールすることが大事だと思います。

(前田委員)

過激な発言かもしれないが、ストーリーが分断されていると話をし
てきたと思うが、全体として瀬戸市のことよりも国とか県の情報が目
についてしまいます。グラフも 1~2 ページそれで占められている。そ
れはそれでインターネット人口とか重要かもしれないが動向について
は半ページで十分ではないか。2 ページとか 3 ページとか 4 ページ割
かれるのは非常にもったいない。同じように 3 章が評価になって 4 章
が基本方針になって、つぎ基本目標とかがくるのかと思ったら 5 章で
官民データ活用推進計画の目的と方針ということで国とか県の方針が
でてきて、5 章がここにあるのは分断の章があるように見えてしまいま
す。もし可能であれば、国とか県とか内外の動向は最初に社会的な動向
とか国の動向とか県の動向で整理してページを割かずさらっとまとめ
て、瀬戸市は今年度、この 5 年間どういう風にやってきたのかを 3 章

で書いていただいて、その評価をしてその評価もできるだけみなさん目線で評価をしていただいて、これを拡充しようとか、これをカットしようとかいう流れでいって4章で、4本柱でやりましょうとって4本柱で6章となり3, 4, 6ときた方がすっきりすると思います。6章を厚くしてほしい。3章、6章を厚くした方がより瀬戸市民としては親しみが持てます。ボリュームの面と順序の面とご再考いただきたいと思います。

(事務局・岡田専門員)

県との事前打合せや各市のICT関連計画を見ても、5章を参考資料等にしても問題ないと考えています。次回の検討委員会では、6章は各課の事業がでてくれば厚くなると思います。

(安田委員長)

前半部分が長すぎるところはあるので、ぜひ、6章を前面にだして厚くしていただきたいと思います。

(寺田委員)

連携して6章をぶ厚くするほうがよいと思うが、例えば、35ページの第4章のICT戦略の基本方針と推進体制のところ瀬戸独自の取り組みの小中一貫校「にじの丘学園」や「愛知県立瀬戸つばき特別支援学校」の開校とありこれはハードのことだが、小中一貫教育ということ、瀬戸市が他市町との違う部分、焼き物の文化について外から見たときに瀬戸市があまり最近推進してないのではないかと指摘があったと思います。今から1300年、1400年のストックをつくっていくことはなかなかできないことだと思うのでせつかくあるものをもっと利用して表にだしていくというところももう少し厚くすることが大事だと思います。

(事務局・岡田専門員)

寺田委員のご指摘どおり小中一貫校のソフトの部分は重要と考えています。今回、教育委員会から第7章としてICT関連の事業が出てくると思います。きちんとソフト的な部分を厚く書けるように調整していきたいと思っております。

(寺田委員)

ギガスクール構想があって、瀬戸市さんの方もいろいろ予算を割いていただいてタブレット端末も小学生、中学生全員に配布することが決まっていますので他から見たときに少しメリットになる部分を増やしていくことも大事かなと思います。

(安田委員長)

ギガスクールに関してはハードが先行し過ぎていてソフトの部分、教育としてどうして行くのだろうというところはどの自治体もあまりトータルで議論が深まっていないところはあると思います。結構現場に任せてしまっているところがあったりするので、今回の計画書には入れられないかもしれないけども今後我々がフォローアップしていくなかで現場の先生たちがギガスクールの対応をしっかりやることのできる環境が整っているのかどうか、もし足らなければ何が足りないのかということ ICT の立場からフォローしていくということも大事かなと思っています。国としてはギガスクールについて、インフラ整備、ハード整備というところにとりあえず目がいっていると思うのですが、たぶん現場の先生たちはこれ来たけどどうしようと思っている先生もたくさんいらっしゃると思うので、そのあたりを我々としてはきちんと目配せをしていくということが大事かなと思います。

(事務局・情報政策課長)

その部分、まだ少し聞こえてきているぐらいですけど、教育委員会の方も教育部の方も教育版の ICT 戦略を今作っているということなので、あまりこちらでは詳しく書き過ぎると齟齬が発生してしまうといけないので、大きく向かっていく方向というのをきちんとうたっておいて、あとそれがブレークダウンされた形で向こうの ICT 戦略があるという形で、当然お互い情報はやりとりしながらすり合わせをして、さきほど言った齟齬のないようにどちらにもきちんと理屈が通るような形で考えていきたいと思っておりますので、今向こうがそれに取り掛かっておりますので一緒になってやっていこうと思っております。

(寺田委員)

少し話がそれるかもしれませんが、安田先生のお話されたとおり現場は先日、校長会の役員の方と意見交換する機会があったの

ですけど、それこそ黒船来航ぐらいの大きな問題だと話をされている先生もおみえになったぐらいで、実際それを使っていく教員の方が子どもたちにより良い教育をしていくことが大事ですけど、今、ICT の支援員の方々が不足しているのでそういうところもやはり厚くしていかなければというお話を頂いたと思います。

(安田委員長)

今のことはとても重要なポイントでありまして、私たち研究室で関わっている事例があります。名古屋市のある区でリタイヤされたビジネスマンの方をこれは学校ではないのですが地域に ICT を教えるというわけではないが伝える養成員というかそういう人たを準備してコミュニティのなかでデジタルデバイドをなくしていこうとしているのですね。今まさに寺田委員が言われたように学校のなかでやはり ICT をサポートする方の数がいろいろな自治体のお話を聞いているとかなり足りていないというのが現状であるようなので、そのあたりぜひ、教育等関係部局と瀬戸市のなかで進めていただければなと思っていて、ぜひ、重要なポイントだと思いますのでよろしくお願ひします。その他、委員のみなさんどうでしょう。

(林委員)

先程、23～25 ページのアンケートについて話があったと思うのですが、今ひとつ、アンケートがここにある意味が少し分からないというか、まちづくりに対する市民の意識ということで意見がでていいるのですが、例えば下の方のところはそう思うという人を増やしていくために、ICT では何ができるかということを考えるためのものですか。

(事務局・岡田専門員)

例えば、24 ページの 29 番の「瀬戸市の魅力発信や瀬戸市の認知度を上げる取組が積極的に行われていると思いますか」という問いに対しまして、どちらかという低い評価を頂いている部分があります。あと 24 ページの 22 番の「市の方針や活動について十分な説明がなされ重要な情報が公開されているかと開かれた市政が推進されているか」というところで 31 パーセントがそう思うといったようなところで、これは第 6 次総合計画のアンケートなので、まちづくり全体のアンケートになるのですが、ICT という部分のところでも

少し拾える部分があるのかなと思っています。そのかわり林委員の言われるように私も少しこのアンケートの繋がりが分かりづらいと思いますので今のご指摘いただいた部分、どういうところに ICT が関連するかというところは分かりやすいように表現しようと思います。

(林委員)

この色分けは見やすいように色のついているところと色のついていないところとあるということですね。

(事務局・岡田専門員)

これは見やすいように色をつけておりますので、ICT を関連するところを赤枠で囲うとかの修正をしていきたいと思っています。

(安田委員長)

よろしいですか。ありがとうございます。やはりこういったアンケートの評価のところは何のためにしているのかというところを、もう少しせっかくだから出した方がいいですよということだと思えますのでよろしくお願いします。瀬戸市の魅力のところですが、今回、せともの祭はどういうふうにされたのでしょうか。

(事務局・情報政策課長)

直接は担当していないが、瀬戸陶磁器卸商業協同組合様が Web 上で販売する産業まつりとしてオンラインで開催したということです。

(安田委員長)

せともの祭を Web でやった経験を活かすことが大事だと思っています、どの社会でも同じなのですけども、いわゆるアフターコロナというかニューノーマルに向けて今回の経験をどう生かすかということだと思のです。例えばせともの祭を今回 Web でやられたという経験値を今後どう生かしていくかというところも ICT の利活用に当然入ってくると思います。今、観光が全然ダメになっていますけども戻って来た場合に瀬戸市さんとしても頑張っていかなければいけない部分だと思いますが、その中でオーバーツーリズムの問題がある中で、瀬戸市のせとものというものが地域における観光資源として

の役割がすごく大きいものがあるわけなのでこれをどう生かしていくか、それに対して ICT をどう活用できるかというところですね。オーバーツーリズムの課題を解決するためのマイクロツーリズムを振興していく中で瀬戸市はこうしていくというところも今回のこの計画に書けるかどうかは別として、我々としてはどこか頭の片隅に置いておいてニューノーマル下における世界発信をどうしていくか、それについて観光をどうしていくかということも継続的に考えていただければいいかなと思っています。

寺田委員いかがですか。

(寺田委員)

先程お話いただいた Web 上のせともの祭は、緊急事態宣言が出て外出ができない一番ヘビーなタイミングの時に有田が初めて Web 上で有田焼祭りをやられました。その時、行こうと思っていたみなさんが行けなくなったのでそのページがありますよということたくさんご覧になられたと。それに近いものをやりたいなということだったのでですけどやはりなかなか宣伝広告費とかもなくて有田の場合ですとその Web を見てもらうためにいろいろな媒体を活用して PR をしているところで、なかなか今のせともの祭でいうと有田と違って顧客のストックも持ってないです。そこでリアルに近いせともの祭に近いものが出来たかどうかは分からないので、そこに来店した方々によって全然評価が違ったかと思います。今、アンケートをとって集計している段階なので結論はでてないですけどそのような感じだったりとか、アマビエが、今、出来てますが、毎年、焼物の蓋とかでそういうものの人形を作ったりして、それをアマビエとして奉納しているのですけどなかなかメディアの取材も来てもらえなかったです。そういうところがまずは厳しかったかなと思います。先程、先生が言われたようにそういうものをうまくストックしていきながらどうしていくかということは今後考えていくことも大事だと思います。

(羽根委員)

せともの祭は決済も Web 上でできる仕組みだったのでしょうか。

(寺田委員)

もともとアマゾンだとか楽天だとか、いわゆるそういうソフトを

持っている会社はそれをそのまま利用していると思いますし、持っていない方々はBASEやSTORESのようなソフトを使っていろいろな商材を出して行ってそこにカートがついているのでそういうような紹介の仕方だったかなと思います。

(羽根委員)

そうすると入口は同じだけでも、中に入ってみるとそれぞれの店舗のイメージが違って、更に入ってみると買い物の仕方が違ってということで、お客様が他の店で買おうと思うと迷うような感じで、シンプルではないので、先程、安田先生も仰ってましたけども、そういった経験をもとにそういったものもせとまちナビの中に入口として一個作ってあげてとか、同じようなインターフェースとか入口も同じものにしてあとはカードとかそういったものも瀬戸ならではのものです、それぞれの店舗であってもいいと思うけども使い方が迷わないもので使っていけるようになると、外からの人も瀬戸をみてもらえるだろうし、瀬戸の人も瀬戸のものを買おうかなとここに入っていくと簡単に買えるなというものになるといいなと感じました。

(安田委員長)

ありがとうございました。みなさんよろしいでしょうか。今日は第3回ということで皆様方から非常に貴重なご意見をたくさん頂けたと思っています。事務局の方はたくさん頂けた意見に提案できるところとできないところは当然あると思いますので、今日の意見を十分に反映いただいて、それで次回、より揉んだものにしていただくということに期待したいと思います。みなさんありがとうございました。

(事務局・情報政策課長)

ありがとうございました。次回は委員の皆さんから頂いたご意見をできる限り反映させた上で作成します。最終案というものについてみなさんから意見を頂ければと思っております。第4回の検討委員会は11月を予定しております。日程は改めてご連絡いたしますのでよろしくお願ひします。12月から1月にかけてパブリックコメントを実施して、その後、本当の最終案という形にしてもう一度みなさんにご覧いただいて3月にかけて公表していくという形をとっ

てまいりたいと思っておりますので今しばらくのご協力をよろしくお
願いいたします。では以上を持ちまして第3回の瀬戸市 ICT 戦略推
進プラン検討委員会を閉会とさせていただきます。長時間にわたり
どうもありがとうございました。

以上